メタリストを応援するネットワーク情報誌

シートメタル九州

Sheet Metal KYUSHU

2019秋号
第55号

CONTENTS

特　集
弊社に福岡労働基準監督署が！ … 2
職人のこだわり
第３回　株式会社ヤスナガ
溶接工程主任　原田義光 4
工業会からのお知らせ
「広島工場視察研修会」報告 …… 5
セミナー報告（板金図面検定前講習） … 9
ブース出展のお知らせ …… 9
トピックス
㈱まるわステンレス工業　選手雇用パートナー企業として
～FCバレイン下関～ …… 10
今後の予定 …… 11
編集後記 …… 12

特集　弊社に福岡労働基準監督署が！

【先日、監督署が来ました】　ドラマの題名のような文句ですが、２年連続で労働基準監督署が来ました。

理由は二年半前に曲げ作業中に手を挟むケガが発端となったことで、労働基準監督署が来たことに始まります。

近年皆様もご存知の通り製造業は人材難と言われています。

弊社もここ３年くらい若手の人材が立て続けに退職し（経験３年から５年）新たに入社した人材も慣れたころに退職のサイクルでなかなか定着できていません。

一度目の監督署の立ち入りとなった原因は、入社半年を越えたあたりの従業員が曲げ作業中に手を挟んだことです。曲げ作業は一か月ほど経験しており､慣れてきた矢先に起こりました。幸い手の甲の裂傷で済みましたが、今思えば一人で作業させるには経験が足りなかったかもしれません。

バックゲージに突き当てる際にあて具合が悪く、落ちそうになった材料を取ろうとし、手を入れ、足もフットペダルにかけたままだったので体を動かしたときに足がペダルに触れて機械が動き、手を挟む事故でした。事故を起こす直前に怪我しないように作業しなさいと話したばかりだったのですが起こってしまったということは私もその従業員も曲げ作業を行わせる際、行う際の危険意識が低かったのだと思います。

事故後、労働基準監督署から連絡があり監督官が来られました。

安全会議

監督官からはプレス機を重点に騒音のことやフォークリフトの運用計画の対策を求められました。プレス機にはすぐに安全装置を準備し、その他の指摘箇所も対策を立てました。

そして今回は前年に指導されていたプレス機の安全装置の使用状況と新たに溶接作業時のじん肺対策のための指導でした。

溶接作業の保護具着用責任者と堆積粉塵責任者を定め、指導してくださいと言われました。

それと作業ごとに危険行動の改善のためリスクアセスメントを行い提出していってくださいと指導がありました。

リスクアセスメントとは災害の重篤度、発生の可能性、解決すべき優先度をもとに危険リスクの見積もりを行うことです。

一度に全作業を提出しなくてよいと言われたものの、このような経験が少ない私にとっては少々大変だと感じました。

第一回目はプレス機について作成することにし、まだ安全装置を準備できていない場合でも危険リスクが下がる処置を行うことと指導され、工場の従業員にアンケート形式で意見を集め、安全推進者とともにプレス作業についてのリスクアセスメントを作成しました。

先日労働基準協会が行っている全国安全週間の説明会に行ったときにある企業さんが不休災害 4500 日だと説明がありました。大体 12 年ほどでしょうか、営業日だけ換算だと 15 年くらいになるかもしれません。

そこの企業様は定期的に行われる安全教育で、クレーンで吊り上げた鋼材を作業着を着せたマネキンの上に落下させ粉々にするデモなどを従業員に見せて緊張感を保つよう促したりしているようです。映像的に迫力のあるものでした。

弊社も 1000 日程度であれば日常の安全の呼びかけで過ごしてこれましたが、ここ数年は小さなケガが何度かあります。

安全装置設置

安全装置

急に以前の段取りや作業方法を変えるのは簡単ではありませんが、小さなことからコツコツと行動し改善しようと思います。

常日頃から安全対策に力を入れてある企業様からすればまだまだの内容でありますが、今後事故を起こさず会社の安全意識を高めていく所存です。

〈柴垣 拓史　㈱柴垣製作所〉

株式会社ヤスナガ　溶接工程主任　原田義光

弊社は薄板～厚板までの総合板金業で少量多品種生産を強みとし、中でも中厚板（t3.2～12.0程度）の曲げ加工を得意としています。

主な製品としては、コンクリート製橋梁用型枠や、地元柳川で養殖が行われている海苔の乾燥機械のカバー、架台等を製作しています。

今回は、昨年受注した装置架台を例にして、ベテラン溶接工の原田社員の仕事を紹介したいと思います。

本架台の従来の製作方法は、形鋼（Cチャンネル等）にケガキ、それにあわせ切断や溶接を行うもので、弊社では形鋼用レーザー設備が無いことと、製缶の加工実績が多くないことから、弊社の得意とするものではありませんでした。

お客様の満足のいく納期、品質等をクリアする為には、形鋼部分を弊社得意な板金曲げ加工に変更させて頂く必要がありました。（もちろんお客様に承認頂ける限りで）

そこで原田社員が自ら展開、AP100でのプログラム作成を行いながら、組合せ部には金属ホゾ加工を追加するなどアイデアを出しながら、お客様と交渉を重ね、弊社でもスムーズに加工可能な仕様に変更を進め、その結果、品質、納期、価格共にお客様に喜んで頂けるものとすることができました。

今回の仕事に貢献した原田社員のスキルや思考を考えてみると、（お客様に満足して頂く仕事をすることは大前提として）

①溶接工でありながら、図面展開、AP100も習得していた多能工だったこと。
前職の関係で建築分野の知識があったこと（ホゾ加工は主に建築で用いられる用語だそう）。
②「どう工夫すれば効率よく作業できるか」と考えることが定着していること

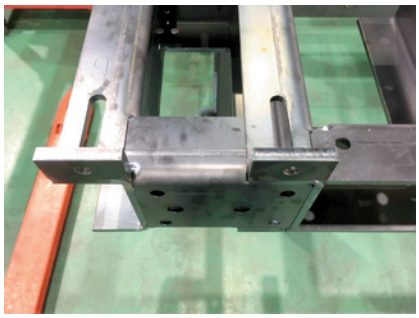
ということが見えてきました。

定年間近という年齢でありながら、このような原田社員の仕事に対する姿勢は、若い世代の私達も見習わないといけないと感じます。

若手、中堅社員たちにも、自分の担当以外にも興味をもち複数の視点を育みながら、効率よく作業するには？と考える癖を身に付けていってほしいと思います。

AP100も興味を持ち、独学で勉強

完成形


曲げR部にもスリットを入れ、
組立精度が向上

「広島工場視察研修会」報告

この度工場視察研修会として広島シートメタル工業会会員２社の工場視察に行ってきました。〈令和元年７月 19 日（金）～ 20 日（土）〉
前日の昼間九州は大雨でその日の夜のニュースでは山陽新幹線の一時運休のニュースが流れ、さらに土曜にかけて台風接近のニュースもあり視察が決行されるか危ぶまれましたが、当日は要所要所で雨が止み台風も九州・中国地方を直撃すること無く、また広島シートメタル工業会の青年部の皆さんとも交流でき大変有意義な時を過ごすことが出来ました。

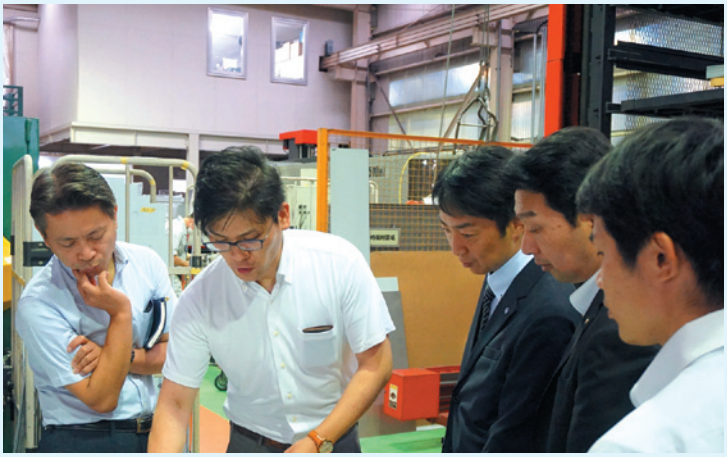
９時に各自博多駅に集合し昼前に広島駅に到着。広島と言えばお好み焼き。11 名のおじさん達を乗せた貸切りバスは「お好み村」の前へ横付け。ビルの２階フロアを数十件のお好み焼き屋が入居している中「てっ平」さんにて美味しくいただきました。平日ということもあり、周りの店はパラパラとしかお客さんがいない中、この店だけスーツを着たおじさん達がギュウギュウ詰めの店内でお好み焼きを食べている風景は外から見たら滑稽だったかもしれません（^_^;）　鉄板焼きのお姉さんが片言の日本語だったことに、ここでも国際化の流れなのか、単なる人手不足なのか、それともたまたま偶然なのか考えながら食べていました。お腹を満たしたところで今回の第一の目的地である㈱ミズト様へ移動しました。

株式会社ミズト　創業 1935 年（昭和 10 年）、従業員 40 名の老舗の会社でした。現社長は３代目で主に送配電設備メーカーの仕事をメインで取り組まれていました。主に高圧受配電盤や電線地中化 BOX 等の電力向け設備を設計、板金加工から塗装、そして配線までを一貫生産されていました。兄弟で経営をされていて社長（兄）は以前送配電設備メーカーに勤務されていたことから電気に精通されており、副社長（弟）は板金工場を管理され、それによりお客様との設計段階から色々な情報交換や提案など他社では真似できないところがこの会社の強みなのだと感じました。また電気を取り扱えることから、社内の電気配線はもちろんのこと、制御を含めた移動棚など自社で製作

されており、そういうことが社内で出来ることを羨ましく思いました。工場見学の中で兄弟の仲も大変良く、溶接や塗装の工程も若手のリーダーがいて製品の品質と仕上がりに職人としての誇りを持って仕事に取り組んでいることがこちらに伝わってきて、とても職場内の雰囲気の良い会社だと感じました。工場内には「理想の社員」の文言が掲示してあり色々な面で勉強になりました。

そこからまたバスに乗り込み約1時間の移動を経て、第2の見学地㈱高村興業所様へ到着しました。

株式会社高村興業所　創業1949年（昭和24年）、従業員約50名　到着後会議室に入り高村社長より開口一番「今日は工場見学はそこそこに、これからの板金業界について皆さんと色々と意見交換をしたい」と挨拶があり、想定外の提案に身が引き締まる思いをしながら先ずは工場見学からスタートしました。工場一杯に多くの設備が配置され、ちょっとしたところにも様々な治具や工具が工夫されて使用されているのを拝見でき大変勉強になりました。また溶接エリアではステンレスと鉄のエリアが区分けされており製品の取り扱いに気を配られていることもよく分かりました。さらにファイバー溶接ロボットをはじめ複数のロボットが配置してあり、常に業界の最先端の設備導入を続けていらっしゃることに大変感銘を受けました。じっくりと工場見学をさせて頂いた後、休憩を挟んで意見交換会が始まるのかと思いきや高村社長から現在の会社を取り巻く環境やBCPの問題、ファイバー溶接機のZAM材での条件出しの話など話題が多岐に渡り、ほぼ社長の独演会となりした（^^;)。　話は大変面白くあっという間に予定時間が来てしまい、殆ど意見交換をすることなく終了してしまいましたが、特に技術について話されている時の社長の目の輝きは、まだまだ技術に対する貪欲さがビシビシと感じられ経営者たる者こうならなくてはならないと思い知らされました。今後また改めて色々な意見交換できたらと思います。



今回のメインテーマである２社の工場見学も無事終わりホテルへ向け出発しましたが週末の帰宅時間帯とあってか道路は大渋滞で予定より遅くチェックイン、慌ただしく準備して広島シートメタル工業会青年部さん達との懇親会会場「酔心」へと向いました。広島の郷土料理を提供するお店と聞いていましたが、今思うと何が郷土料理だったのかよく覚えていません(-_-;)。懇親会では一人ずつ会社案内と自己紹介を行い、また両隣の方々と仕事やプライベートの話で盛り上がり、あっという間の時間でした。

その後も２次会、３次会と広島の夜を満喫でき楽しいひとときでした。

広島での研修会２日目は朝８時の早朝からホテルを出発して「大和ミュージアム」へ向いました。広島駅から鈍行電車で約１時間、昨日の疲れからか電車の中ではみんな居眠りしていました。平成 17 年に建設された呉市にある大和ミュージアム。あの戦艦「大和」が昭和 16 年この呉の軍港で建設されたということをその時初めて知りました。当時の最先端技術の集大成で世界最大の戦艦だった「大和」。10 分１の模型が展示してありましたが、外観のデザインもさることながら、鉄鋼、電気、大砲、内燃機関、レーダー室等、当時にこれだけのモノを作り上げた先人達の技術力にただただ感服しました。戦後もこの建造技術は生き続け、世界一の大型タンカー建造だけにとどまらず、自動車や家電製品の生産など幅広い分野で応用され、戦後の日本の復興を支えたと紹介されていました。また近くに潜水艦も展示してあり実際の艦内に入って寝る場所や操舵室など狭い空間の中を体験できました。実際海底でこの中で何ヶ月も生活すると想像するだけで、精神的タフさがないとこの空間では堪えられないだろうと思いました。当然昼食は海軍カレー。ミュージアムに行っただけにカレーの味も感慨深いものがありました。

電車でまた広島駅へ戻り、今度は広島平和記念資料館へ向いました。広島駅よりタクシーで10分位のところにあり、私は修学旅行依頼の訪問でしたが、着いた瞬間やはり何となく重たい空気を感じました。昭和30年に「広島平和記念館」として開館し、それを平成6年に改築「広島平和記念資料館（東館）」となり、その後平成29年4月にリニューアルオープンしたとのことでした。8月6日の惨状から始まり、放射線による被害、魂の叫び、生きる、というテーマで展示がしてあり、次のエリアでは原子爆弾の開発と投下、原子爆弾の脅威、核の時代から核兵器廃絶へ向けての歴史の流れがわかりやすく説明してありました。改めて核兵器の恐ろしさを目の当たりにしました。また来場者の約半数以上が外国人だったことは世界平和を望む上では非常に素晴らしことだと感じました。

再び広島駅に戻り、帰りの新幹線の出発まで各自自由行動となりました。ちょうどマツダスタジアムでは巨人戦が行われる予定で、前日は逆転勝利したこともありカープファンは盛り上がっていました。夕方近くだったこともあり、広島駅にはユニフォームを着たカープ女子を沢山見かけました。駅構内にある酒場では球場入りする前に皆さん楽しく野球談義をして盛り上がっているようでした。それを尻目に帰宅の途につきました。今回の広島県工場視察研修会、たった2日間でしたが非常に中身の濃い充実した2日間でした。ありがとうございました。

〈島津 竜太郎　㈱シマヅテック〉

セミナー報告（板金図面検定前講習）

9月7日の板金図面検定試験に向けて、6月26日（水）27日（木）の2日間で、板金図面検定前講習が行われました。試験の申込人数が112名（過去最高人数）に対し、この講習会に参加されたのが、福岡会場75名、沖縄会場が8名で合計83名となり、74％の参加率となりました。ここ数年は50％～60％の参加率でしたので、予想以上の参加者数でぎゅうぎゅう詰めの状態での講習となりました。

講習会場の様子（アマダ九州サテライトセミナールーム）

今回、板金図面検定前講習に参加された受講者の方からコメントを頂いています。

《受講者コメント》

講習では図面を描く際の様々なルールを基本から丁寧に教えていただき、普段意識していなかった線一つ一つの意味を再確認する事ができました。

展開図作成では、パソコンに頼りがちな寸法計算を改めて訓練でき、新しいアプローチの方法も学ぶ事ができて非常に有意義な内容でした。

試験にあたっては講習内容をしっかり反復練習して身につけ、展開計算に落ち着いて取り組みたいと思います。

〈林　紘司　株式会社まるわステンレス工業〉

モノづくりフェア2019 ブース出展のお知らせ

来る10月16日（水）～18日（金）までの3日間、マリンメッセ福岡で開催される九州最大級の産業見本市「モノづくりフェア2019」に昨年に引き続き、九州シートメタル工業会がブース出展します。

今回で6回目の出展となる同フェアでは、第31回優秀板金製品技能フェアの入賞作品を展示するなどして会場に訪れた工業高校や工業高等専門学校の学生に対し、板金加工の魅力や可能性をアピールし、板金業界に関心を持ってもらうことを目的としています。

開催間近になりましたら会員の皆様へ招待券を発送させて頂きますので、ぜひとも足をお運びください。

会期：2019年10月16日（水）⇒18日（金）
　　10:00～17:00（最終日は16:00まで）
会場：マリンメッセ福岡（福岡市博多区沖浜町7-1）
主催：日刊工業新聞社

TOPICS

㈱まるわステンレス工業　選手雇用パートナー企業として ～ FC バレイン下関～

サッカーをこよなく愛する まるわステンレス工業の林です。

山口県にはレノファ山口というチームがあり、現在Ｊ２リーグで奮戦しています。

そして下関にも、昨年県リーグから中国サッカーリーグへ昇格した「ＦＣバレイン下関」というチームがあります。バレイン (Baleine) とはフランス語で「クジラ」。

近代捕鯨発祥地である下関では「日本一のくじらのまち」を目指しており、下関の動物にクジラを制定しています。（ちなみに下関市の魚はもちろん「ふく」です！）

地元ゆるキャラと勝利のランダンス

戦後間もない 1949 年から 3 年間だけ下関に本拠地を置いた「大洋ホエールズ（現横浜 DeNA ベイスターズ)」。それから半世紀以上経った 2006 年に誕生したサッカークラブ、それがＦＣバレイン下関です。

そのバレイン下関の選手雇用パートナー企業となった弊社では、今年の 3 月より安片選手が働いています。彼は熊本出身の 26 歳。瞬足のサイドの選手でスポーツマンらしい好青年です。（私とは大違い！）

社会貢献には寄付やボランティアなど様々な形がありますが、地元チームの選手雇用という形での地域貢献もあることを実感する、本当に良い機会を頂きました。

試合後の交流イベントで安片選手・娘と記念写真

企業ＰＲやイメージアップなどが効果として期待されますが、個人的に一番感じていることは、人としてのご縁の大切さです。

工場で作業する
安片選手（TIG 溶接）

いつクビになるか分からない世界で、夢を追いかけて頑張ってる姿を間近で見ることは、刺激にもなりパワーをもらえる気がします。

隔週ペースで開催されるホームゲームには、時間が許す限り（嫌々な）娘と一緒に応援に行っています。実は先日、観戦席で博多シヤリング工業の野村社長と偶然お会いしました。Ｊリーガーの息子さんと安片くんは同じ大学サッカー部だったそうです。こんな素敵なご縁も、人生の宝物！

下関プライド！
エンブレム外形は鯨の形です

「日本一地域から愛されるクラブチーム」を目指すバレイン下関。

弊社もそれに乗っかって、日々精進したいと思います。

ものづくりとはまた異なる世界との触れ合いや交流を通じて、私を含めた社員全員が成長できる機会になりますように…。

合言葉は「鯨撃（げいげき）！」　まずは、ＪＦＬ昇格を目指します。

〈林 一徳　㈱まるわステンレス工業〉

TOPICS コーナーは、編集委員以外の多くの会員様の意見や写真を掲載していきたいと思います。掲載ご希望の方は、事務局まで！

今回の表紙

博多祇園山笠（はかたぎおんやまかさ）とは福岡県福岡市博多区で毎年７月１日から15日にかけて開催される700年以上の伝統のある祭です。櫛田神社にまつられる素戔嗚尊（スサノオノミコト）に対して奉納される祇園祭のひとつで博多どんたくとともに、博多を代表する祭りです。

写真は７月15日の追い山のゴール地点で、向かいのホテルオークラの３階から撮影。ＴＶスタッフの更に上から撮れました。（優越感）

追い山は博多祇園山笠のクライマックスにあたる行事です。

（タイムトライアル）

４時59分に一番山笠が山留めをスタート、博多の総鎮守櫛田神社境内の清道を回って奉納します。その後、二番山笠から八番山笠「走る飾り山」までが５分おきに出発し多数の男たちが交代を繰り返しながら博多の町を舁き回り、須崎町の廻り止めまで約５㎞のコースを駆け抜けます。

（八番山笠は別コース）。

山笠が清道を回り終えると、櫛田神社境内にて喜多流の能楽師により紋付き袴の姿で「鎮めの能」が舞われ終了。

スタート時刻が４時59分と言う中途半端な時刻なのは一番山笠のみ櫛田神社境内で祝い歌「博多祝いめでた」を歌う１分間が与えられており、５分おきと言う山笠の出発間隔を調整するためだそうです。

去年、今年と休みの日が追い山だったので見ることができましたが、来年以降平日が続きますのでなかなか見る機会に恵まれないかと思われますが、現場は凄い迫力なので万象繰り上げて一度見てみる価値はありますよ。　〈植木 剛彦　㈱ナダヨシ〉

九州シートメタル工業会　今後の予定

日　程	予　定	日　程	予　定
10/16（水）～18（金）	モノづくりフェア 2019	1/18（土）	技能検定（実技）
10/17（木）	板金いろは研修（フォロー１回目）	1/22（水）	組織力強化のための管理
10/18（金）	パワーアップ研修会　成果発表会	1/24（金）	賀詞交換会　WITH THE STYLE FUKUOKA
11/6（水）	企業価値を上げるための財務管理	2/6（木）～7（金）	ブレーキセミナー（宿泊・２日間）
11/7（木）	技能検定前講習　１回目	2/7（金）～8（土）	TIG 溶接セミナー（２日間）ステンレス板材編
11/8（金）	技能検定前講習　２回目	2/8（土）	技能検定（実技）
12/6（金）	2019 年度第２回役員会	2/20（木）	板金いろは研修（フォロー２回目）
12/10（火）	技能検定前講習　３回目	2/21（金）	リーダー能力強化セミナー　４回目
12/11（水）	プレス金型調整特別教育	＊未定	板金いろは研修（工場視察）
12/18（水）	リーダー能力強化セミナー　３回目	＊未定	技能検定（学科）
12/19（木）	問題解決（不良削減）　成果発表会	＊未定	親睦ゴルフ

＊日程が決まり次第ご案内いたします

編 集 後 記

今年は梅雨が長く涼しい夏になる？と聞いてはいたもののやはり暑い夏がやってきました。この時期になると会社の休憩中に従業員にアイスを出すことにしています。毎日ではないのですが一瞬でも涼しい、美味しいと思ってもらえればと思ってのことです。

ガリガリ君などの氷系はやはり好評で、バニラクリーム系もおいしいのですが、やはり喉が渇いたときはガリガリ君に手が伸びるようです。

ガリガリ君

私が小さい時は 50 円だったガリガリ君も今は 70 円になっており、期間限定を含めば 80 種類以上も世に送り出されたそうです。前は近くに毎日アイスの買い出しをしてましたが最近はイオンネットスーパーでまとめて買っています。単価 10 円近く安いようです。

ガリガリ君期間限定

コラボ？

現在売り出し中

歴代ガリガリ君

皆様、今年も暑い夏ですが東京五輪まで一年を切りましたし熱中症にならないよう業務に励んで参りましょう。

〈柴垣 拓史　㈱柴垣製作所〉

今回「マイブーム」「企業探訪」は、休載させていただきます。悪しからずご了承ください。

シートメタル 九州　第 55 号
（九州シートメタル工業会会報）

発行日　令和元年 9 月 25 日
発　行　九州シートメタル工業会
事務局　株式会社アマダ 九州営業所
〒 816-0912　福岡県大野城市御笠川 1-9-4
TEL 092-580-8570

九州シートメタル工業会　ホームページ　http://www/kyushu-sma.gr.jp
ホームページアドレス・メールアドレスを変更された会員の方は、事務局までご連絡下さい。